

令和3年版

厚生労働白書

(令和2年度厚生労働行政年次報告)

— 新型コロナウイルス感染症と社会保障 —

コラム

新しい生活様式を目指し、オンラインで人と人がつながるサロンを実現（千葉県松戸市）

取組みの背景と新型コロナウイルス感染症の流行

千葉県松戸市では、2016（平成28）年11月から、千葉大学予防医学センターと協定を締結し、NPOや企業等と連携しながら、住民主体の活動により要介護認定率や介護給付費の減少を目指すための都市型介護予防モデルを構築する「松戸プロジェクト」に取り組んでいた。

ところが、新型コロナウイルス感染症の流行により、地域における対面型の活動が困難になった。同プロジェクトが、介護予防に資する住民主体の通いの場である「元気応援くらぶ」へのアンケート調査を行ったところ、2020（令和2）年4月からの緊急事態宣言中に活動を休止している団体が7割超、宣言解除後に再開した団体も半数未満となるなど、高齢者が運動する機会や人と会う機会が減少し、心身への影響が危惧された。一方で、アンケート調査では、元気応援くらぶの活動時のビデオ会議ツールの活用頻度は低いものの、約半数の団体が興味関心を示していた。

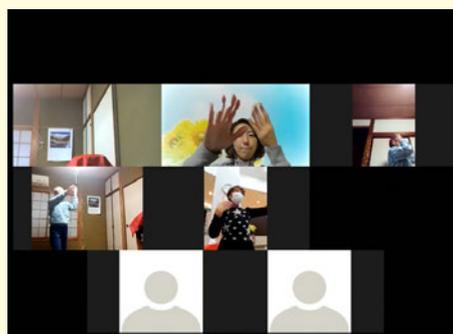
オンライン・サロンの取組みと成果

同プロジェクトでは、上記アンケート調査結果を踏まえ、元気応援くらぶを中心に、タブレットによるビデオ会議ツールを活用したオンライン・サロンの取組みを行うこととした。

具体的には、タブレットを参加団体のメンバーに3週間無償貸与し、まずタブレットになじみの薄い高齢者でもスムーズにコミュニケーションが取れるよう、その使い方などを体験してもらう講習会を開催した。その後、各参加団体が、サポート役のスタッフの支援を受けつつ、タブレットを活用して活動を行った。活用方法は様々であるが、盆踊りの活動をしている元気応援くらぶでは、練習をオンラインのみで行い、その成果として実際にメンバーが集合して踊る機会を設けた。練習は先生を中心にお互いの動きをタブレットの画面を通じて確認しながら行ったが、いざ集合して合わせてみると息がぴったりと合っており、全員が一体感と充実感を感じることができた。



盆踊りの集合練習



盆踊りのオンライン風景

取組みの成果と今後の展開

こうしたオンライン・サロンの取組みには、同年11月から翌年3月にかけて、24団体150名程度の参加があった。参加者は、女性の後期高齢者の割合が多く、スマートフォンやタブレットの使用経験の無い者が半数以上であったが、多くの参加者から楽しかったという意見が聞かれた。この期間中に新型コロナウイルスに感染した者はいなかった。また、参加者へのアンケートでは、オンラインでも通いの場の活動ができるとの回答が8割以上であり、実際に半数以上が今後も続けるとしている。同プロジェクトでは、オンライン・サロンに前向きな意見が多かったことから、ウィズコロナにおける取組みとして定着させていくことを考えており、例えば男性でも興味を持てる活動や高齢者の身体の状態に応じた活動を支援していくことを考えている。

同プロジェクトは、今後も新たな生活様式に合わせた社会参加の場を確保できるような仕組みや機会を作り、家族や仲間、地域とつながりを保ちながら、健康寿命の延伸に寄与することを目指している。

お知らせ

2021.07.30

「アジア健康長寿イノベーション賞2021」受賞団体決定のお知らせ

Category : NEWS メディア掲載

Tags :

Category

事業領域
NEWS
セミナー
メディア掲載
出版
採用
JCIE/USA

Tags

新型コロナウイルス感染症

月別アーカイブ

月を選択



アジア健康長寿イノベーション賞2021 受賞団体決定

日本国際交流センター（理事長・大河原昭夫、以下JCIE）ならびに東アジア・アセアン経済研究センター（事務総長・西村英俊、以下ERIA）は、アジア健康長寿イノベーション賞2021(第2回公募)の受賞団体を決定し、本日発表いたしましたのでお知らせいたします。

日本を含むアジア10か国・地域から応募があり、アジアの有識者で構成される国際選考委員会による厳正なる審査の結果、第2回の受賞者は以下の10団体に決定いたしました。本年は特に、コロナ禍が高齢者に与えている影響の大きさに鑑み、新型コロナ対応特別賞を設けています。

「アジア健康長寿イノベーション賞」は、日本政府によるアジア健康構想の一環として、ERIAおよびJCIE が2020年に創設した表彰事業で、健康長寿の達成、高齢者ケアの向上に資する取り組みをアジア各国から募集し表彰するものです。テクノロジー&イノベーション、コミュニティ、自立支援の3分野で、高齢化による様々な課題の解決となる革新的なプログラム、サービス、製品、政策を募集・表彰することにより、アジア地域内で優れた知見を共有、その実際の応用を後押し、この地域の共通課題である急速な高齢化に共に対応していくことを目的としています。

アジア健康長寿イノベーション賞 大賞

【テクノロジー&イノベーション部門】

【コミュニティ部門】

バンコク首都庁 (Bangkok Metropolitan Administration) (タイ)
「介護予防のための首都庁モデル」

パトゥムタニ県ブイントー市、タップマー市、タマサート大学、神奈川県湯河原町、野毛坂グローバル (Bueng Yitho Municipality and Partners) (タイ)
「多様な機関との連携を通じた包括的ケアモデルSTRONGプログラムの他自治体への普及」

【自立支援部門】

羽立工業株式会社、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター、株式会社コサイコンサルタンツ (Hatachi Industry, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, and Kosai Consultants) (タイ/日本)
「タイ東北部における高齢者の健康増進」

準大賞

一般社団法人WheeLog (日本)
「みんなで作るバリアフリーマップ WheeLog!」

国立台湾大学医学部付属病院雲林病院 (National Taiwan University Hospital Yunlin Branch) (台湾)
「へき地高齢者のためのヒューストン・アポロ地域保健モデル」

医療法人大誠会グループ (日本)
「認知症の行動障害を改善し、その人らしく生きることを可能にする大誠会スタイルのケア」

新型コロナ対応特別賞

マレーシア高齢化研究所 (Malaysian Research Institute on Ageing) (マレーシア)
「新型コロナ感染症流行下のケア施設内での自立型ロボットによる非接触デリバリーと利用者の訓練プログラム」

松戸プロジェクト・コンソーシアム (千葉大学、松戸市、住民ボランティア、株式会社Biz Brew、一般社団法人日本元気シニア総研はれの日サロン、日本老年学的評価研究機構) (Matsudo Project Consortium) (日本)
「アフターコロナ時代の新たな都市型介護予防モデル：コレクティブインパクトによるオンライン『通いの場』導入の試み」

インドネシア・ラマランシア財団 (Indonesia Ramah Lansia West Java Chapter) (インドネシア)
「新型コロナ感染症流行下の高齢者に寄り添うボランティアプログラム」

各受賞事例の詳細記事(英文)は[AHWIN公式ウェブサイト](#)をご覧ください

日本語の事例概要は[こちら](#) をご覧ください

日本国内選考

日本国内では、1次選考として国内選考プロセスを設けました。国内選考委員会の厳正な審査により最優秀事例・優秀事例を以下の通り決定し、このうち最優秀事例を国際選考に提出いたしました。国内選考委員会の中村秀一委員長(一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長)による[選後評](#) に国内選考の傾向・今後への期待が記載されておりますので是非ご覧ください。

- 最優秀事例 - (五十音順)

一般社団法人WheeLog (東京都)
「みんなで作るバリアフリーマップ WheeLog!」

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター (愛知県)
「国立長寿医療研究センター在宅活動ガイド：NCGG-HEPOP 2020の開発」

医療法人大誠会グループ (群馬県)
「認知症の行動障害を改善し、その人らしく生きることを可能にする『大誠会スタイル』のケア」

TANOTECH株式会社 (神奈川県)
「楽しさを作るテクノロジー「TANO」で教育福祉を繋ぐ」

松戸プロジェクト・コンソーシアム (千葉大学、松戸市、住民ボランティア、株式会社Biz Brew、一般社団法人日本元気シニア総研はれの日サロン、日本老年学的評価研究機構) (千葉県)

2021年7月30日

報道関係者各位

アジア健康長寿イノベーション賞 2021 受賞団体の決定

日本国際交流センター（理事長・大河原昭夫、以下 JCIE）ならびに東アジア・アセアン経済研究センター（事務総長・西村英俊、以下 ERIA）は、アジア健康長寿イノベーション賞 2021 の受賞団体を決定し、本日発表いたしましたのでお知らせいたします。

2020年に創設された本賞の第二回となる今回、日本を含むアジア 10 개국・地域から応募があり、アジアの有識者で構成される国際選考委員会による厳正なる審査の結果、高齢化に伴う様々な課題に革新的な手法で対応している以下の 10 団体への賞の授与を決定いたしました。本年は特に、コロナ禍が高齢者に与えている影響の大きさに鑑み、新型コロナ対応特別賞を設けています。

【大賞】

テクノロジー& イノベーション部門	テツユウ・ヘルスケア・ホールディングス（シンガポール）	CARES4WOUNDS
コミュニティ部門	バンコク首都庁（タイ）	介護予防のための首都庁モデル
	パトゥムタニ県ブイントー市 他 3 団体（タイ）	多様な機関との連携を通じた包括ケアモデル STRONG プログラムの他自治体への普及
自立支援部門	羽立工業株式会社、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター、株式会社コサイコンサルタンツ（タイ/日本）	タイ東北部における高齢者の健康増進

【準大賞】

テクノロジー& イノベーション部門	一般社団法人 WheelLog（日本）	みんなで作るバリアフリーマップ WheelLog!
コミュニティ部門	国立台湾大学医学部附属病院 雲林分院（台湾）	へき地高齢者のためのヒューストン・アポロ 地域保健モデル
自立支援部門	医療法人大誠会グループ（日本）	認知症の行動障害を改善し、その人らしく生きることを可能にする大誠会スタイルのケア

【新型コロナ対応特別賞】

マレーシア高齢化研究所（マレーシア）	新型コロナ感染症流行下のケア施設内での自律型ロボットによる非接触デリバリーと利用者の訓練プログラム
松戸プロジェクト・コンソーシアム（千葉大学、松戸市、住民ボランティア、株式会社 Biz Brew、一般社団法人日本元気シニア総研はれの日サロン、日本老年学的評価研究機構）（日本）	アフターコロナ時代の新たな都市型介護予防モデル：コレクティブインパクトによるオンライン『通いの場』導入の試み
インドネシア・ラマランシア財団（インドネシア）	新型コロナ感染症流行下の高齢者に寄り添うボランティアプログラム

取材の受付・お問い合わせ先

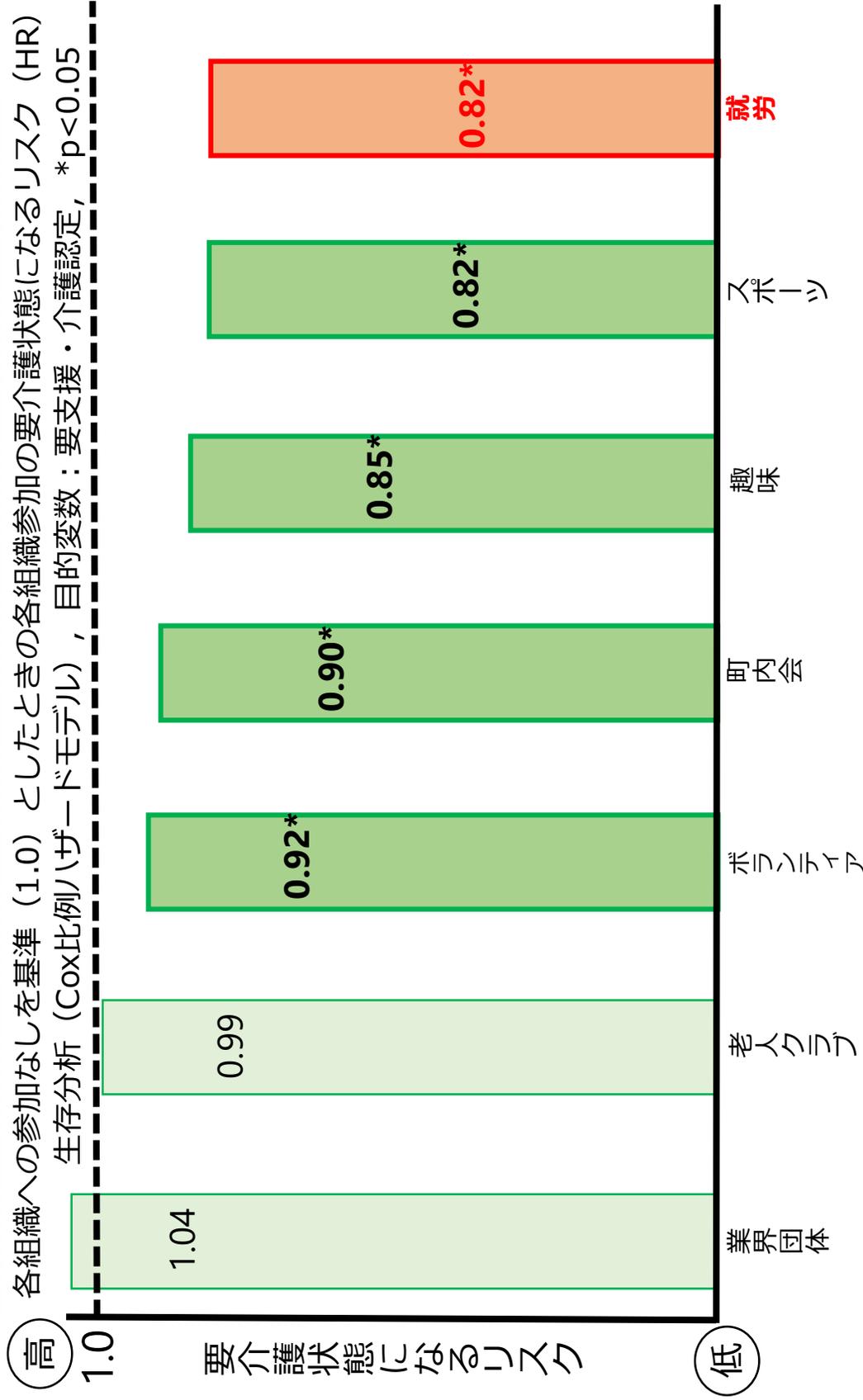
（公財）日本国際交流センター（JCIE）

「アジア健康長寿イノベーション賞」運営事務局 石井: yishii@jcie.or.jp 伊藤: sitoh@jcie.or.jp

就労を含む社会参加と要介護認定

対象 JAGES2010回答者を約6年追跡：高齢者47,306名（平均年齢：73.5±5.7歳）
*除外：追跡2年以内に要支援・介護認定

各組織への参加なしを基準（1.0）としたときの各組織参加の要介護状態になるリスク（HR）
生存分析（Cox比例ハザードモデル），目的変数：要支援・介護認定，* $p < 0.05$



*性，年齢，等価所得，教育歴，婚姻状態，治療中疾患，歩行時間，外出頻度，うつ，社会的サポート，友人と会う頻度，手段的日常生活自立度を調整（分析担当：井手一茂，千葉大学）（Ide K. et al., 2020）